

印西大師 旧第79番 草深新田・天王前（嶺雲院跡）

1 名称 (No.278)〔資料館：○印〕〔行程表：天王前〕

2 場所 印西市草深1156 草上コミュニケーションセンターの敷地内

丸山観音大師堂から道程約2,100m

GPS座標 35.80302725571606, 140.13410772785397

3 由緒 天王山 福源禅寺 嶺雲院

惣深新田の天王山嶺雲院が不如意で大破しているの、この度、江戸白金台本寺端聖寺に末寺として譲り渡すことになった（宝暦六年十一月嶺雲院松雲寺末寺譲渡証文）（「印西町史資料集近世編4 P.74）（宝暦6年=1756年）

4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が1体あり。台座正面には「七十九番」、左面には明治25年(1892年)の銘がある(印西町調査報告書)

5 境内 大師堂の南隣に別の御堂があり、北隣は草上コミュニケーションセンターがある。御堂の裏に石造物がある。

6 写真 (2022.10、2023.02撮影)



大師堂



第79番の台座の御大師様



大師堂



草上コミュニケーションセンター



隣の御堂



隣の御堂の中

7 情報

(1) 嶺雲院の引寺と丸山観音堂（ブログ「いんざい再発見」より抜粋）

ア 丸山観音堂の創建

宝暦8年(1758年)に引寺され廃寺となった惣深新田の嶺雲院跡地は、仏像は無くなりましたが、建物は空き家となって20年後も野にさらされたままになっていたようです。(中略) 安永5年(1766年)4月、10代将軍家治が徳川家康の墓所がある日光社参を行いました。そのとき平左衛門信賢は下総国36か村の触れ次役を仰せつかって日光社参の古河まで旅をしていました。帰郷した信賢はこの年に、嶺

雲院の境内地から観音堂を丸山の地に一回り小ぶりにして移築しました。ここは惣深新田検地のとき、幕府の陣屋が建てられたところでした。陣屋解体後は香取家の請地になっていたのです。この丸山の観音堂に香取家4代平左衛門信賢が観音様を新たに買い求めて祀りました。観音堂には表側に小浜家の二つ巴紋が彫られ、裏側には香取家の柏紋が彫られています。」(ブログ「いんざい再発見」)

イ 嶺雲院

草深の延宝4年の検地から134年後の文化7(1810)年に『草深志』を著した香取家6代目・香取利彰は、①嶺雲院の寺号が「天王山福源禅寺」であったこと、②同寺は、「山城国宇治黄檗山(おうばくさん)(万福寺)の末寺」であったこと、③寺の草創は昔、旗本・小浜民部という人が先祖菩提のために建立したものであったこと、④開山にあたっては豆州田方郡吉田荘の円覚山高勝寺の住職である臨済正宗34世を名乗る唯心和尚を遣わしたものであったと記しています。<『草深志』は『印西町史』史料集近世編4に収録>」(ブログ「いんざい再発見」)

ウ 嶺雲院の仏像は4種類5体

嶺雲院の本尊は1尺5寸の聖観音像(慈覚大師作)、本尊の両脇には高さが5尺余もある大梵天王、帝釈天王(行基作)が置かれ、さらにお釈迦様の誕生仏(聖徳太子作)があり、また、客殿の観音堂に高さ7寸余の金属製の聖観音(弘法大師作)が祀られていた。(ブログ「いんざい再発見」)

エ 深川に引き寺された嶺雲院の謎～宝永年間に嶺雲院が江戸・深川に引寺となる

『草深志拾遺』(『印西町史』史料集近世編4に収録)には、後に述べる宝暦8(1758)年に嶺雲院が、「天王山寺号が田畑山林殿堂仏具等まで一円に、価金200両にて江戸(深川)の曹洞宗洞湖和尚と申す僧へ売り渡しける」、「売主は嶺雲院住持・有隣、名主・清田4世源兵衛當幸(まさよし)、兩人なり」と書いています。いわゆる「嶺雲院引寺事件」です。「引寺」とは寺院が買い取られることです。唯心が草深野に庵を築いてから85年後に廃寺することになったということです。

『地方凡例録』(江戸時代後期に高崎藩主・松平輝和の命令を受けた郡奉行大石久敬によって著された)には「徳川時代は新規に寺を建立することが禁じられていたが、過去にあった寺院の寺号を買い取ることは例外だった。その例として惣深新田の嶺雲院の寺号をもって深川の霊雲院が新しく建立した例がある。その後、引寺も難しくなった」と書かれています。この寺院の建立を願った旗本・小浜民部廣隆と唯心僧侶が宝永2(1705)年に亡くなってから、すでに53年が経っていました。小浜家は廣隆の曾孫にあたる8代・小浜主膳致隆(おきたか)の時代でした。(ブログ「いんざい再発見」)

(2) 第79番札所について(推測)

これらのことから推測すると、印西大師において当初は嶺雲院が第79番札所であったものの宝暦8年(1758年)に深川に引寺され、聖観音像など仏像が持ち去られてしまったので、地元の有力者である香取平左衛門信賢が安永7年(1778年)に丸山観音堂を創建し、観音像を安置し、その後(時期は不明だが)、第79番札所も丸山観音堂に移したというのが大まかな流れであろうか。

天王前(嶺雲院跡)の大師堂には大きな文字で「七十九番」と記された台座に乗った大師像(石像)がある。ただし、明治25年(1892年)に造立されたものなので古くからあったものではないようだ。一方、丸山観音堂の大師像(石像)の台座には文政12年(1829年)という造立年と香取忠右エ門ほか造立者の銘があるので、その頃第79番札所は丸山観音堂に移ったとも考えられる。

享保6年(1721年)に創設された印西大師だが、その後衰退していったことを憂いて、これを再興した南陽院の孝祐法印が、天保元年(1830年)に書き記した「印西新四国霊場勧請縁起」(印西歴史愛好会編「印西大師八十八ヶ所」所収の資料3)に、(再興した時に)「茲に始めて八十八軀の石像を建立し発願成就の曙光を拝するを得たり」との記述があるので、それ以前は各札所に(必ず)弘法大師の石像があったというわけではないようだ。印西町調査報告書などで札所にある石像のうち造立年の銘文のあるものを調べてみると、丸山観音堂と同じ頃、1829年(平岡東大寺)や1830年(古新田阿弥陀堂、大森星

光院、小林馬場の堂、行徳新田稲荷堂、多々羅田太子堂、松崎多聞院、戸神薬師堂、戸神安養寺、清戸薬王寺、白幡吉祥院)の造立が多く、それより古いのは竹袋神宮寺(1810年)や延命寺(1813年)などごくわずかしかな。つまり丸山観音堂の御大師様は、印西大師の再興の際に、孝祐法印らの呼びかけに香取忠右エ門らが応じたのではないかと考えられる。したがって、1830年頃には丸山観音堂が名実ともに第79番札所となっていたのではなかろうか。

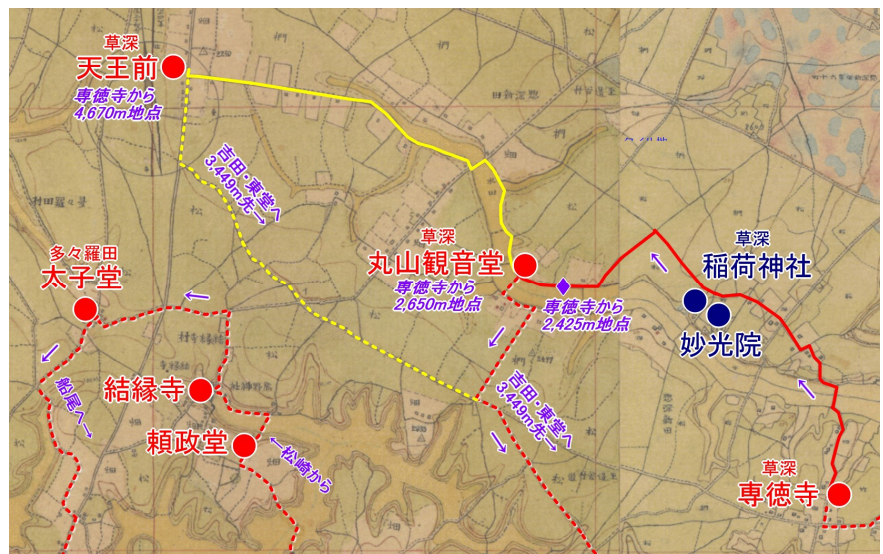
ところが明治4年(1871年)の手引鏡では第79番は丸山観音堂ではなく「てんおふとう」(天王堂)とある。これはどういうことなのか。深川への引寺から丸山観音堂の創建まで20年、丸山観音堂の大師像(石像)の造立となると引寺から70年もの歳月を経ている。その間においても印西大師の巡行が行われたとき第79番札所が欠番だったとは考えにくい。空き家になった旧嶺雲院に弘法大師の石像は残されていなかった(あるいは、もともと石像は無かった)としても何らかの御大師様で代替し、第79番札所として巡拝されていたであろう。その後文政12年(1829年)には地元の有力者によって御大師様が用意され第79番札所となり、さらに文久年間(1861-63)には89体の大師像が祀られ、一層大師講が盛んになったことから、ここが第79番札所の名称である「天王堂」と呼ばれたのではなかろうか。(推測)

(3) 天王前(嶺雲院跡)が草深・天王堂なのか？

しかし、正解は「印西大師七十九番札所はもう一つ存在する。(中略)八坂神社の傍らに残る『天王堂』がそれで、明治四年の版木の道程ではこちらが正式な札所となっている。」(印西歴史愛好会編「印西大師八十八ヶ所」P.70)とのことで、手引鏡でいう第79番草深天王堂とは、丸山観音堂のことではなく、天王前(嶺雲院跡)のこのことです。

とは言うものの手引鏡による札所間の距離は、草深・下ノ堂→22丁14間(2,425m)→天王堂→31丁半

7間(3,449m)→吉田・東堂となっているので、草深・下ノ堂の場所を専徳寺と仮定し、当時のコースを予想してGoogleマップで距離を測ると丸山観音堂までが2,650mであるが、天王前(嶺雲院跡)となると4,670mにもなってしまいます。現在と明治初期とは道が多少異なるとしても天王前(嶺雲院跡)を天王堂というには距離が違いすぎないだろうか。専徳寺と天王前とは直線距離でも約3,500mもある。距離的には丸山観音堂あたりが合致しているように思う。



約3,500mもある。距離的には丸山観音堂あたりが合致しているように思う。

印旛歴史民俗資料館の「印西大師順路図」には(第79番札所は天王前とは別の場所にある)「草深八十八ヶ所天王堂」とあり、平成24年度印西大師順路行程表には「仲側 天王堂」(平成28年度は「仲側丸山堂」)とあるように、今では天王堂の名は天王前ではなく丸山観音堂のある仲側に移ってしまっています。確かに郷土史の専門家の見解なので、手引鏡でいう「天王堂」は草深・天王前(嶺雲院跡)かもしれませんが、ここでは、天王前だということがもう少しはっきりわかる資料を得られるまで丸山観音大師堂を天王堂としておきます。

(4) 第79番札所は妙光院だった？

明治39年の梶原納経帳によると第79番札所は草深 明光院(本尊 阿弥陀如来)とある。明光院(みょうこういん)とは、御本尊も同じなので妙光院のことと思われる。とすると明治39年頃の第79番札所は、天王前でも丸山観音大師堂でもなく、妙光院だったということになる。